

医師養成課程を通じた偏在対策の効果検証のための研究

研究代表者 小池 創一 自治医科大学地域医療学センター 地域医療政策部門 教授

研究要旨

医師の偏在は、地域間・診療科間のそれぞれにおいて、大きな課題となっているが、未だに解消が図られていない課題の一つである。医師の偏在是正に向け、医師養成課程を通じた偏在対策の効果検証を進めることは重要であり、医師養成を行う医学部と勤務地の状況や、複数地域に勤務する医師の状況、臨床研修における診療科選択の状況について明らかにすることは重要である。

本年度は、医師届出票情報、民間データベース、医師臨床研修者アンケート調査の調査票分析を通じ、医学部所在地や地域枠と勤務地の関係、医師の複数地域診療の実態および高齢医師の地域差、総合診療のキャリア選択に影響する因子等を明らかにすることを目的とした研究を行った。

本研究を通じて、医師偏在対策の効果検証や今後のあり方について検討する上で有益な情報を得ることができたと考えられる

研究分担者

今中 雄一 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻医療経済学分野教授

松本 正俊 広島大学大学院医系科学研究科地域医療システム学講座 教授

畠山 修司 自治医科大学地域医療学センター 総合診療部門 教授

山本 祐 自治医科大学地域医療学センター 総合診療部門 講師

研究協力者

豊川 智之 和洋女子大学看護学科 教授

原 広司 横浜市立大学国際商学部国際商学科国際マネジメント研究科 准教授

A. 研究目的

医師の偏在は、地域間・診療科間のそれぞれにおいて、大きな課題となっているが、未だに解消が図られていない課題の一つである。医師の偏在是正に向け、医師養成課程を通じた偏在対策の効果検証を進めることは重要であり、医師養成を行う医学部と勤務地の状況や、複数地域に勤務する医師の状況、臨床研修にお

ける診療科選択の状況について明らかにすることは重要である。

本年度の本研究では、医師届出票情報、民間データベース、医師臨床研修者アンケート調査の調査票分析を通じ、医学部所在地や地域枠と勤務地の関係、医師の複数地域診療の実態および高齢医師の地域差、総合診療のキャリア選択に影響する因子等を明らかにすることを目的としている。

B. 研究方法

医学部所在地や地域枠と勤務地の関係に関する研究では厚生労働省の「医師・歯科医師・薬剤師届出票情報の提供に係る利用申出引」に定める手続きを取り、厚生労働省に医師届出票情報の提供について申請し、提供を得て集計・分析を実施した。

医師の複数地域診療の実態および高齢医師の地域差の検証に関する検討では、株式会社日本アルトマークの医師データを用いて、2002年から2022年までの都道府県別、二次医療圏別の兼業医師割合の推移および高齢医師の地域分布を検証した。

臨床研修修了者アンケートを用いた総合診療のキャリア選択に影響する因子の検討では、2018年から2020年の臨床研修修了者アンケートを用い、臨床研修前の将来希望分野を総合診療としていた者と他分野を希望していた者の2群に分け、基本属性、将来希望分野選択理由および臨床研修内容を検討した。

C. 研究結果

研究結果の詳細については、各分担研究報告書を参照されたい。

(1) 医学部所在地や地域枠と勤務地の関係に関する研究

都道府県内勤務医師に占める地元大学出身者割合と、地元大学卒業医師の地元都道府県勤務割合をみると、基本的には、各都道府県に所在する大学の卒業生が最も多く勤務するのは、その都道府県であり、その都道府県の医師の供給源となっているものの、地元大学出身者が地元に残る割合や、都道府県におけるその大学の出身者が占める割合には大きな差があることがわかる。また、医師少数区域に勤務する若手医師に占める地域枠の割合が高くなっており、医師偏在対策としての地域枠の効果が示されたものと考えられる。

(2) 医師の複数地域診療の実態および高齢医師の地域差の検証、地域医療の質と医師数・専門医数の関係に関する検討

東日本では兼業医師の占める割合が高く、西日本では低い傾向がみられた。また、都道府県内の二次医療圏でも大きなばらつきが確認された。

(3) 臨床研修修了者アンケートを用いた総合診療のキャリア選択に影響する因子の検討

臨床研修後の将来希望分野を総合診療とする因子として、研修前から総合診療を希望していた群では地域枠出身、総合診療ローテーション、長期間の地域医療ローテーション、プライマリ・ケア能力獲得への期待および地域貢献希望が明らかとなった。研修前に他分野を希望していた群では、高い年齢、長期間の総合診療ローテーションおよびプライマリ・ケア能力獲得への期待が挙げられた。両群ともに学問的興味や専門性維持を優先することはキャリア選択阻害因子であった。

D. 考察

(1) 医学部所在地や地域枠と勤務地の関係に関する研究

医学部所在地と卒業医師の勤務地に関する分析から、広域的に医師を供給する大学や、地元都道府や周辺地域に医師を供給する役割といった違いには、設立母体や、特定の目的をもって設立された大学であるかといかといった大学の持つ役割による可能性も考えられ、新設医科大学として、これまで医科大学が存在していなかった地域に新たに医科大学が設立された際の医師を供給する大学の変化が背景にあることが示唆され、今後の医師養成や医師偏在是正に向けた検討の重要な基礎資料になるものと考えられる。

地域枠については従事要件の修了者がまだまだ少ないが、医師少数地域の重要な医師供給源として機能していることが明らかと

なった。地域枠の中長期的な医師偏在是正効果については、従事要件となる勤務年限を終えた医師がその都道府県にどの程度定着するかも重要であり、地域枠で養成された医師が従事要件を終えた後も、当該都道府県に勤務を継続するかを新たなデータを加えて分析を継続してゆく必要があると考えられる。

(2) 医師の複数地域診療の実態および高齢医師の地域差の検証

医師の兼業はすでに一般的に行われており、兼業を前提とした医師の働き方の支援や体制づくりは、医師少数地域の医師確保に資する可能性がある。加えて、診療所医師の高齢化によるプライマリ・ケアの継続性の課題、病院勤務医師の高齢医師割合のばらつきの課題が明らかとなり、それぞれに適した対策を講じることが求められる。

(3) 臨床研修修了者アンケートを用いた総合診療のキャリア選択に影響する因子の検討

総合診療のキャリア選択促進には、臨床研修中の総合診療部門ローテーションの促進が重要である。また、研修前の将来希望分野を総合診療としていたか否かで、キャリア選択促進に影響する研修内容が異なる可能性がある。阻害因子からは、総合診療の学問体系強化と、専門性維持を主体としたキャリアパス明確化が同分野の課題であると考えられる。

E. 結論

本研究を通じて、医学部所在地や地域枠と勤務地の関係、兼業医師と高齢医師の地域偏在の検証、総合診療分野を例に、臨床研修前後の希望分野に状況と、キャリア選択へ影響する因子等の一旦を明らかにすることができ、医師偏在対策の効果検証や今後のあり方について検討する上で有益な情報を得ることができたと考えられる。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし